

平成27年度資源評価報告書(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成27年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 サメガレイ

学名 *Clidoderma asperrium*

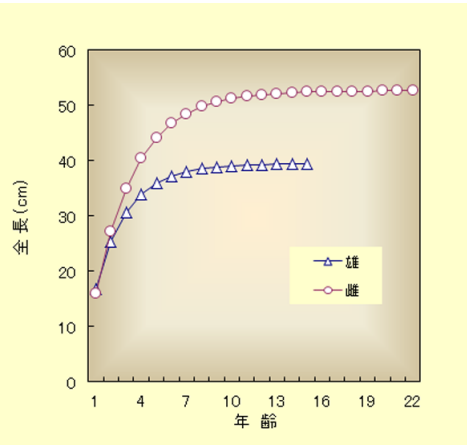
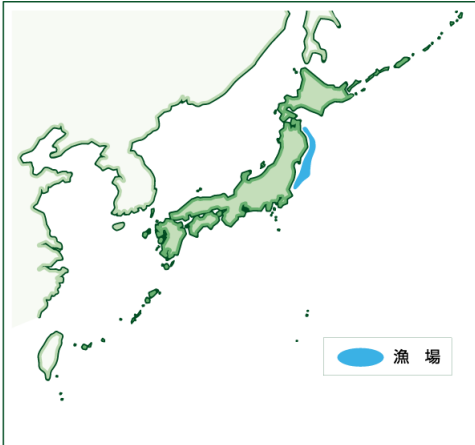
系群名 太平洋北部

担当水研 東北区水産研究所



生物学的特性

寿命： 雄15歳、雌22歳
成熟開始年齢： 雄：2歳（一部）、3歳（ほぼ100%）、雌：3歳（一部）、4歳（ほぼ100%）
産卵期・産卵場： 1～2月、水深600～900mの深海域
索餌期・索餌場： 周年
食性： クモヒトデ類
捕食者： 不明

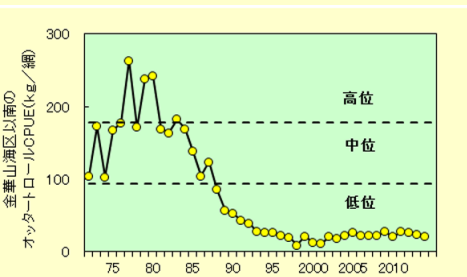
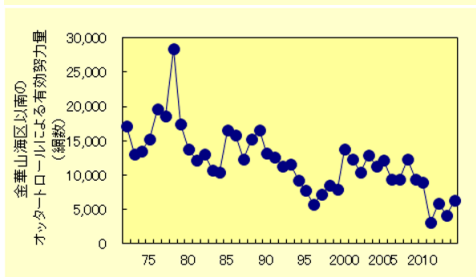
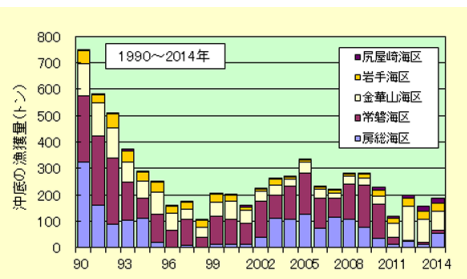
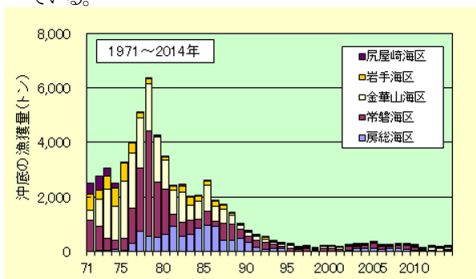


漁業の特徴

主に沖合底びき網(沖底)により漁獲される。小型底びき網や刺網等でも漁獲されるが、これらの漁獲量は極めて少ない。漁場は、1970年代前半は金華山海区が中心であったが、1970年代後半には常磐海区、1980年代には房総海区に南下した。その後、1990年代以降は金華山・常磐・房総海区(宮城県～茨城県沖合)での漁獲が大部分を占めるようになった。

漁獲の動向

沖底による漁獲量は、1978年の6,329トンにピークに減少し、1998年には過去最低の108トンとなった。その後、やや増加し、2006～2010年は200トン台で推移した。2011年には東日本大震災(震災)の影響で漁獲量は減少したが、2012年には金華山海区での漁獲量が増加し、200トンまで回復した。2014年の漁獲量は188トン(暫定値)であった。海区別では、震災前は常磐・房総海区の漁獲量が大部分を占めていたが、震災後は金華山海区の漁獲量が増加している。



資源評価法

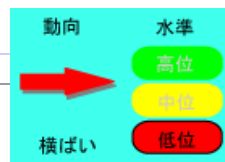
沖底の主要な漁場である金華山海区以南(金華山・常磐・房総海区)のCPUEの推移により資源状態を判断した。

資源状態

沖底によるサメガレイのCPUEは、1980年頃をピークに減少し、1990年代半ば以降は低い水準で推移している。資源水準の区分は、1972年～2014年のCPUEの最大値と最小値の間を3等分し、上から高位、中位、低位とし、水準は低位と判断した。過去5年(2010～2014年)のCPUEは横ばい傾向にあり、動向は横ばいと判断した。

管理方策

産卵期前後に集中的に漁獲されることから、親魚量を増加させるためには漁獲を抑える必要がある。漁獲が産卵親魚に集中しているため、漁獲を抑えて親魚量を確保することを管理目標とし、2016年ABCを算定した。



管理基準	Limit/Target	F値	漁獲割合 (%)	2016年ABC (トン)
0.7・Cave3-yr・0.91	Limit	-	-	130
	Target	-	-	100

- Limitは、管理基準の下で許容される最大レベルの漁獲量。Targetは、資源変動の可能性やデータ誤差に起因する評価の不確実性を考慮し、管理基準の下でより安定的な資源の増大が期待される漁獲量。ABCtarget = $\alpha \times ABClimit$ とし、係数 α には標準値0.8を用いた
- ABC算定のための基本規則2-1) により、 $ABClimit = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ で計算した
- δ_1 はCaveを用いる場合の低位水準の推奨値である0.7とした
- γ_1 は、 $\gamma_1 = 1 + k(b/I)$ で計算し、kは係数(標準値の1.0)、bとはCPUEの傾きと平均値(直近3年間(2012～2014年))である
- Cave3-yrは2012～2014年の平均漁獲量
- ABCは10トン未満を四捨五入した

資源評価のまとめ

- 主漁場である宮城県～茨城県沖における沖底CPUEから資源状態を判断した
- 資源水準は低位、動向は横ばい
- 漁獲が産卵親魚に集中しているため、産卵親魚の確保が必要

管理方策のまとめ

- 漁獲を抑えて親魚量を確保することを管理目標として2016年ABCを算定した
- サメガレイが産卵のために集群している場所での操業自粛が資源管理に有効

執筆者: 服部 努・成松庸二・柴田泰宙・永尾次郎

資源評価は毎年更新されます。